



# 石川県珠洲市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ<sup>o</sup> 2022

## 地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、観光・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは成長の機会になります。

## おススメのポイント！

- Uターン就職を取り巻く状況について深く知ることで、自身のキャリアを考えるきっかけになります！
- 同様のテーマでワークショップに取り組む石川県内の学生たちとの協働を通じて、大学を超えた交流ができます！
- グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。

## テーマ

### 若者 Uターンのボトルネックを突き止めよ！ ～Uターン促進に向けて何が変わるべきなのか？～

能登半島の先端にある珠洲市には、東京のような便利さはありません。しかし、豊かな里山里海が広がり、地域に根ざした伝統的な産業・文化や、人々が培ってきた暮らしの知恵や技が今も息づいています。だからこそ、「ホンモノの田舎である」「何かできそうな余白がある」ことに魅力を感じて移住する **20～30 代の若者が近年増えています**。

一方で、珠洲市出身者の Uターンは伸び悩んでいます。これは、珠洲市で育った子どもたちの多くが高校卒業後に市外へ進学し、そのまま就職や結婚等により、珠洲市に戻らないケースが多いからです。彼らは、珠洲市をよく知っているからこそ、戻りたくない理由があるのか？それとも戻りたくても何かが妨げとなって戻れないのか？あるいは・・・。

Uターンにはまだ伸びしろがあると期待しつつ、珠洲市出身の若者が実際にどんな想いを持っているのかを十分把握できていないため、行政としても効果的な施策を打ち出せていないのが現状です。

そこで本ワークショップでは、珠洲市出身の 20 代を対象にしたアンケート・ヒアリング調査等により、**珠洲市で若者 Uターンが進まない要因を分析・考察**していただきます。さらに、市内企業との意見交換を通じて企業側の想いを知り、今後の Uターン促進に向けて**若者と企業が交流できるコミュニティのアイデアを提案**していただきます。なお、活動全般を通して、同様のテーマ設定で「**SDGs 実践型ワークショップ**」に参加する石川県内の大学生とも協働しながら、相乗効果を目指します。

## 珠洲市の魅力

あなたは「珠洲」が読めますか？石川県の一番北、能登半島の最先端にある、人口約 13,000 人の本州で最も人口の少ない市です。世界農業遺産に認定されている豊かな里山里海の原因風景やキリコ祭り等の伝統文化を色濃く残しながらも、珠洲の魅力を実践型で再発見する「奥能登国際芸術祭」など、先進的な取り組みにも積極的に挑戦する、なつかしくて新しいまちです。



# 募集概要

募集期間	2022年6月3日(金)～6月17日(金) 17:00 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生(修士課程) (学部、専攻、学年問わず)
応募条件	<b>原則として事前説明会(オンライン)への出席 および 全ての公式日程(次頁)への参加が可能なこと</b>
募集人数	1チーム(4名程度)
応募方法	<p><b>事前説明会(オンライン)について【要申し込み】</b>          日時: 6/7(火)、6/8(水)、6/9(木)、6/10(金)、6/13(月)、6/15(水) 12:20～12:40(全日程)          ※申し込み方法などの詳細は、Waseda メールもしくは Web ページ上でのご案内に記載しています。          ※すべての回で内容は同じです。上記6日程のうち、いずれかの回にご参加ください。          ※事前相談会(12:40～13:00)も上記の日程で実施します(参加は任意です)。</p> <p>(説明会出席後) <b>以下の手順もしくは右のQRコードのリンク先から申請してください。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① MyWASEDA の「お知らせ一覧」から「地域連携ワークショップ 2022 夏編」を検索</li> <li>② 「地域連携ワークショップ 2022 夏編応募フォーム」から「申請」をクリック</li> <li>③ 必要事項(志望理由 400 字程度)を入力して申請</li> </ol> 
選考方法	書類選考: 結果通知は <b>2022年6月27日(月) 12:00までにWasedaメール</b> にて通知します。 ※面接選考(オンライン)を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。</li> <li>② フィールドワーク(現地調査)の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、珠洲市内となります。</li> <li>③ <b>【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。</b></li> <li>④ <b>【重要】フィールドワークへの参加にあたっては出発前にPCR検査等を受検し、結果を提出いただく必要があります。受検方法、スケジュール等は参加者にご案内します。</b></li> <li>⑤ <b>新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては対面でのイベント(オリエンテーションやフィールドワーク等)がオンラインでの実施に切り替わる可能性があります。</b>その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。</li> <li>⑥ 参加にかかる費用(現地までの交通費<sup>*</sup>、フィールドワーク期間中の食費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など)は参加者による実費負担です。<b>宿泊は珠洲市内の施設を利用します(市が手配、宿泊費補助あり)</b>。なお、WSC メンバーズ基金(WASEDA サポーターズ倶楽部)からの支援により、5,000円～10,000円が補助されます(金額はワークショップ開始時にご案内します)。  <b>※交通費の目安(片道・ご参考):</b>            東京駅～金沢駅(15,000円前後) + 金沢駅～珠洲市内(高速バス利用 2,730円)</li> <li>⑦ <b>【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。</b></li> <li>⑧ 当ワークショップは複数の地域(第2希望まで)に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。</li> <li>⑨ 早稲田大学の学生補償制度に加入いただきますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。</li> <li>⑩ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、<b>公欠扱いとはなりません。</b></li> <li>⑪ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。</li> </ol>
問合せ先	教務部教育連携課 ( <a href="mailto:rbsso@list.waseda.jp">rbsso@list.waseda.jp</a> ) ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部/研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

# ワークショップスケジュール（公式日程）

	予定	日程	内容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2022年 7月13日（水） 16:30～19:00 （予定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者顔合わせ</li> <li>・自治体担当者からの説明</li> <li>・課題および課題設定に至った背景の説明</li> <li>・今後のスケジュール確認</li> <li>・事前調査の内容説明</li> </ul>
②	事前調査期間	オリエンテーション ～フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や試験／レポート対応の合間でグループワークなどを実施し、以下の事前調査を進める</li> <li>1) Uターン促進の先進事例を調査し、成功要因についてチームとしての仮説を立てる</li> <li>2) 珠洲市出身 20代へのアンケート項目案（市作成）に対してコメントをするなど、アンケート調査の準備を進める</li> <li>3) フィールドワーク中の活動について、市担当者と意見交換し、7月29日（金）までに活動プランを市に提出する</li> </ul>
③	フィールドワーク前 オリエンテーション @Zoom	8月4日（木） 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークに関する注意事項の確認</li> <li>・提案作成のプロセスについて大学職員からレクチャー</li> </ul>
④	フィールドワーク @珠洲市	8月7日（日） ～8月10日（水） 【3泊4日】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の「仮説」をもとに、珠洲市内で気になることを観察・記録する</li> <li>・石川県内の学生との合同ワークショップを実施し、珠洲市出身の若者への意識調査（アンケート/ヒアリング）の内容を詰める</li> </ul>
⑤	追加調査期間①	8月22日（月） ～8月31日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークでの活動をふまえ、珠洲市出身の若者を対象とする以下の調査・分析を行う</li> <li>1) 首都圏在住 20代へのヒアリング（オンライン）</li> <li>2) 市が実施するアンケート（8/12～19 予定）の結果分析</li> </ul>
⑥	中間報告会 @早稲田大学	9月2日（金） 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の意識調査や仮説の検証について結果を報告</li> <li>・Uターン促進に向けた若者と企業のコミュニティ形成について提案</li> <li>※石川県内のSDGs実践型ワークショップとの合同開催</li> <li>※市内企業、石川県内の学生、市担当者（@オンライン）が出席</li> </ul>
⑦	プレ報告会 @早稲田大学	9月12日（月） 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告会に向けた進捗報告や発表練習を行う</li> </ul>
⑧	最終報告会準備・ 追加調査期間②	中間報告会 ～最終報告会前日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会の結果をふまえたブラッシュアップ</li> <li>・チームの状況に応じてリハーサル（対面 or オンライン）を実施</li> <li>・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）</li> </ul>
⑨	最終報告会 @早稲田大学	※日時調整中	<p><b>※9月20日（火）～22日（木）の期間中に実施予定です。 7月上旬に参加学生のスケジュールもふまえ日時を決定します。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長など自治体関係者や市内企業の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約2時間）</li> <li>・最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1時間程度）を実施します。</li> </ul>

※上記以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

# 実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く  
↓
- 事前調査：  
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。  
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。  
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化  
↓
- 現地調査・ヒアリング：  
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）  
↓
- 最終提案資料作成：  
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる  
↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での  
打合せや Zoom 等で議論を進める

## 過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

### ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

### チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

### 「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々それぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしやることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていき延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）